

宇都宮市立今泉小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
児童の学習意欲を高める 学習課題の設定の工夫	目標(めあて・ねらい)の共有化と振り返りの時間の確保により、児童が主体的に学ぶ授業の流れを作る。	3年生以上の設問「学校の授業が分かりますか」において、肯定的に回答した児童はどの学年も90%以上であるが、市の割合を上回るかについては学年間でばらつきがある。勉強への好意度については、多くの学年で市の割合を下回っている。今年度はコロナ禍において、授業形態についても学校全体で制限をしながら行ってきた。そうした中でも、児童が学びを実感できる授業・主体的に学ぶ授業に向けての授業改善が喫緊の課題である。
自分の考えを言語化し表現する力の向上を目指した授業の工夫	授業の中で多様な形態で、自分の考えと友達の考えとを比較し、その相違点から対話の場面を生み出す。対話を通して学び合い、自分の思いや考えを表現できるような児童を育成していく。	「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している」と肯定的に回答した児童の割合は、ほぼすべての学年で8割を超え、児童が積極的に話し合いに参加する様子が見えてくる。また4年生以上においては、物事を比べながら考えたりいろいろな視点や立場から考えることについての肯定割合も8割を超えており、対話を通して学びを深めていこうとする姿が見える。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

・市の調査において、各領域・観点の平均正答率を上回り、良好な状態がうかがえた。学校として「自ら考えて進んで学び合う児童の育成を目指して～主体的参加を促し、言語能力を高める授業デザインの工夫～」を研究主題に据え、授業実践に取り組んできた。今年度はコロナ禍により限定的な取組みとなった。次年度は、現状ででき得る最善の方法を考えつつ、本年度の取組みから見えてきた、個人差のある中で個に応じた支援の仕方や課題の提示の仕方、多様な考えを引き出す教師の工夫について取組み、どの子もより学びを実感できるよう、授業改善に努めていく。

・市の調査の各教科に共通して、問題から読み取った結果や考えに対し、自分の考えを整理して言語化していくことに課題が見られた。授業で児童同士の協働的な学びの場面において、自分の意見と理由を明確に表現したり、授業の振り返りの場面で自分の学びを適切な言葉を選び構成して作文したりするなど、言語活動の充実を図っていく。